

令和 2 年度 全国学力・学習状況調査(3 年生対象)結果について

生駒市立緑ヶ丘中学校

本年度は、新型コロナウイルス感染予防のため 5 月まで休業期間がありました。そのため、「国語」、「数学」の学力調査は実施せず、「生徒質問紙」による学習状況調査のみを実施しましたので、その結果をお知らせします。

<生活・行動や考えに関する調査結果>

- 「朝食を食べている」や「毎日同じくらいの時刻に就寝・起床している」などの基本的生活習慣についての項目では、9割以上の生徒が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答しています。きちんとした生活習慣が身についているようです。
- 約 9 割の生徒が「学校での出来事や進路など将来のことを家の人と話す機会が多くある」という結果となりました。家の人とのコミュニケーションの時間がきちんと取られていることがあらわれています。
- 家で、自分で計画を立てて勉強するという回答が7割を占めています。約半数の生徒が3時間以上学習するなど、春からの学校休業の影響で、自ら計画を立てて学習する習慣ができた生徒が増えた可能性があります。今後も生徒の自立を促す取組を進めていきます。
- 学校の授業時間以外に読書を全くしない生徒が約半数います。十分な学習時間を確保しつつも、テレビやインターネットのために費やす時間も多いために、読書を全くしていない生徒がいる可能性があります。

<学習に関する調査結果>

- 「授業で話し合う活動をよく行っている」に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒が多く、授業で対話的な学びができる展開が多く取り入れられていることが分かります。その活動の中で、「相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかり伝えている」に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は約 7 割です。引き続き、話し合う活動を多く取り入れ、その中で一人一人の意見が尊重されるよう指導し、生徒が主体的・対話的で深い学びができるよう工夫していくことが重要です。
- 「国語の勉強が好き」、「数学の勉強が好き」では約 6 割の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答しています。どちらの教科も「授業の内容はよく分かる」におよそ 8 割の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」としていることから、「分かる授業」を土台にして、「分かる」から「勉強が好き」へとつながるような指導をしていくことが今後の課題と考えます。
- 「これまで学校の授業以外やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒は 4 割弱です。学校の授業以外で、中学生が日常的に英語を使う機会はまだまだ少ないことが分かります。今後も学校の授業の中で、実際に英語を使う場面や機会をできるだけ増やす工夫をしていく必要があります。